

# 平成29年度 学校自己評価システムシート（県立岩槻高等学校）

目指す学校像	確かな学力・規律ある生活態度・国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の進路希望を実現する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	1 一人一人を生かす学びの定着（学力の向上を目指して） 2 進路指導の充実（夢の実現を目指して） 3 生徒指導の充実と人権教育の推進（豊かな心の育成を目指して） 4 国際理解教育の推進（国際社会で活躍する生徒の育成を目指して） 5 保護者・地域との連携（信頼される学校を目指して）
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 1 月 1 2 日 現 在 )		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 1 月 1 2 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>[現状] 朝学習が定着し、個に合わせた丁寧な授業がなされ、明るい雰囲気の中で生徒は落ち着いて授業に取り組んでいる。</p> <p>[課題] 家庭学習の習慣化及び、自発的な学習姿勢が不十分である。</p>	<p>・毎日の学習活動を大切に、生徒の学習習慣を確立するとともに教師の指導力を向上させる</p>	<p>①スタディサポートや学習リサーチの結果を活用し個別指導を行う。</p> <p>②朝学習、週末課題に自発的に取り組む意識を醸成する。</p> <p>③一般公開授業を実施する。</p> <p>④教師の授業力向上のために授業アンケートを実施する。</p>	<p>①成績不振を前年比5%減少、成績優良生徒を前年比5%増加させる。</p> <p>②全学年が朝学習を実施するとともに、学習内容の焦点化と事後指導に取り組む。(毎日)</p> <p>③授業公開を年間2回実施する。</p> <p>④生徒の意見を授業内容に反映するために、全教科で授業アンケートを実施する。(毎学期)</p>	<p>・朝学習や各課題を通し、学習習慣の確立を図った。教師の指導力向上のために授業アンケートを実施した。</p> <p>①成績不振者は前年比41%減で大幅に向上した。優良生徒数もほぼ同数であった。</p> <p>②計画に基づき予定通り実施した。確認テストで不振の者には事後指導を徹底した。</p> <p>③授業公開を、予定通り年2回実施した。</p> <p>④アンケートを今年度より毎学期実施した。結果を職員会議で報告した。</p>	A	<p>生徒は授業に落ち着いて取り組んでおり、朝学習の取組状況も良好である。今後も継続的指導が必要である。今後の課題は授業評価アンケート、授業公開を継続し、教員の授業力向上、授業改善に役立てることである。</p>
2	<p>[現状] キャリア教育を意識した指導がおこなわれている。進路意識は向上している。</p> <p>[課題] 進路選択目標を高く持たせ、より難易度の高い大学等に挑戦する姿勢を育てる。各大学の進路指導体制についての情報収集への意識を高める。</p>	<p>・キャリア教育の視点に立った進路指導を行い、生徒が最後まで積極的に困難にチャレンジする意欲を育成する</p>	<p>①職業・学部学科について、各学年に応じて調べ学習を行うとともに、各自が進路情報収集を行う。</p> <p>②講演会、模擬授業等を実施し進路意識の向上を図る。また、面談を通して進路目標を明確にさせ、難関大へのチャレンジを促す。</p> <p>③必要な学習準備内容を把握させ、早い時期から計画的な進学指導の取組を促す。</p>	<p>①3年間を見通した進路行事を適切な時期・内容で実施する。</p> <p>②進路意識の向上を図るとともに面談等を効果的に実施し、3年生の進路決定100%を実現する。</p> <p>③進学講習への参加者、学習道場(自習室)参加者、模擬試験受験者、セク試験受験者を増加させる。(昨年度比)</p>	<p>・進路指導に関する資料提供・講演会等を実施し、進路意欲を向上させた。</p> <p>①各学年で進路行事、進路指導を計画通り実施した。また来年度、各自の評価にポートフォリオ形式の導入を決定した。</p> <p>②3年生は75%の進路決定率である。難関大学への進路も決定した。</p> <p>③学習道場の参加人数は17名で昨年と同程度である。2学期以降の模試参加人数が昨年と比べ増加した。センター試験受験者数は62名で微増となった。</p>	A	<p>引き続きキャリア教育の視点に立ち、継続して1学年から進路意識の啓発に取り組む。進学面では推薦での合格者が多かったため、一般受験者を増やし、国公立や難関大へ挑戦する姿勢をつくるのが課題である。</p>
3	<p>[現状] 全学年統一した指導が図られ、遅刻・欠席者は少なく、身だしなみ、交通マナーも概ね落ち着いた。</p> <p>[課題] 家庭・関係諸機関との連携を深め多様な生徒に関係分掌・学年等が連携して対応できる体制を強化することが必要である。</p>	<p>・多角的な教育活動を通し、規範意識を身に付けさせるとともに、自ら品格ある言動がとれるようにする</p>	<p>①全教職員が共通認識のもと 制服の正しい着用と品格のある身だしなみを身につけさせる。</p> <p>②遅刻指導を継続して行き、基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>③毎日登下校校指導を行うとともに、スグッド・ストリート技法による安全教室を実施して交通事故を防止する。</p> <p>④悩みを抱えた生徒に対し、スクールカウンセラー及び職員間で定期的に情報共有し、継続的な指導を行う。</p>	<p>①全学年共通した指導基準で整容指導を実施する。(毎学期)</p> <p>②遅刻者数、欠席者数を昨年度より減少させる。</p> <p>③交通事故件数を昨年度より減少させる。</p> <p>④毎月教育相談委員会を開催し、転退学者数を昨年度より減少させる。</p>	<p>・校長・生徒指導主任の講話や生徒のボランティア体験等を通して、規範意識や品格を身につけさせた。</p> <p>①共通した指導基準で指導でき、生徒もはじめある生活が送れた。</p> <p>②遅刻者数は、昨年度比8%減、欠席者数は17%増であった。</p> <p>③交通事故件数は7件であった。通学のマナーは向上した。</p> <p>④定期的な教育相談委員会で情報共有・早期対応はできたが、転退学者数は11名で昨年度比1名増となった。</p>	B	<p>学校生活における規範意識を醸成し、生徒の自主自律、さらには生徒の品格を向上させることが課題となる。また引き続きカウンセリング体制を整え、悩みを抱える生徒の情報交換を行い、遅刻・欠席・不登校生徒を減らすことも課題である。</p>
4	<p>[現状] 海外授業体験に対し学校全体での取組ができ、個人の外国文化への意欲向上が見られる。</p> <p>[課題] 国際文化科内に留まらず学年単位、さらには全校での取組に高め、共通理解のもと本校の国際理解教育を外部へ発信していく必要がある。</p>	<p>・国際理解教育を通して、本校全体に異文化理解を普遍化するとともに他校との連携を深める</p>	<p>①国際文化科の学科行事であるイギリス・オマケヤブ、異文化理解歌け、歌舞伎講座などを実施する。</p> <p>②海外授業体験や海外からの留学生を受け入れる。</p> <p>③校内イベントを実施する。</p> <p>④異校種間の連携を積極的に行う。</p>	<p>①国際文化科と国際交流部で国際理解教育の連携を図るとともに、講演を含めた各行事の内容を更に充実させる。</p> <p>②国際理解教育の取組成果の発信や留学生の受け入れを行う。</p> <p>③コンテストを計画的に実施する。</p> <p>④大学等と連携を行う。(年度内)</p>	<p>・多くの行事を通して国際理解教育を推進することにより、異文化理解が浸透した。</p> <p>①パンフレット作成とともに、行事は計画通り実施した。海外授業体験学習参加者は19名で昨年度より5名増加した。</p> <p>②タイ、フランス、オーストラリアから留学生を受け入れ、発表の場を設けた。</p> <p>③英語スピーチコンテストに参加し、全国ディベート大会では、賞を獲得した。</p> <p>④獨協大学と高大連携協定を締結。</p>	A	<p>海外派遣プログラムや各種コンテスト参加が定着し、国際理解教育体制が整備された。今後高い学力を身につけさせるとともに、国際理解教育を継続することが課題である。また本校の国際理解教育の取り組みを地域や中学生に情報発信することも必要である。</p>
5	<p>[現状] 昨年度導入した緊急メール配信は保護者等への即時対応に効果があった。地元フェスタへのボランティア参加も評価が高い。</p> <p>[課題] 緊急メールの普及が不十分だった。さらなる学校外への情報発信、地域との連携を通して、期待により一層広げていく必要がある。</p>	<p>・本校教育活動の多角的情報発信を通し、保護者や地域住民の理解を深め、地域に愛される高校としての評価を高める</p>	<p>①HPをタイムリーに更新するとともに緊急メールを普及させる。</p> <p>②生徒が地域の行事、小高交流事業等に参加し、ボランティア活動を推進する。</p> <p>③PTA活動をより活性化し連携を図る。</p>	<p>①HPアップ数を昨年度比10%以上増加する。緊急メール登録者数を昨年度より増加させる。</p> <p>②昨年に比べ参加者数を増加させる。</p> <p>③保護者会やPTA活動等の行事参加者数を増加させる。</p>	<p>・本校の情報発信を積極的に行うとともに地域行事に積極的に参加した。</p> <p>①緊急メール配信を36回行った。またHP更新数は209回で昨年度並みである。</p> <p>②岩槻まつりボランティア等の地域行事に生徒が参加した。小高交流事業は事前研修が充実し、相手校の好評を得た。</p> <p>③PTA行事を精選した。また特別教室にエアコンを設置し、学習効果を上げた。</p>	A	<p>地域に開かれた学校づくり推進のために、生徒の小高交流や地域行事の参加をさらに定着させる必要がある。そのため外部への情報提供を工夫し、協力・理解が得られるようにすることが課題となる。</p>

学校関係者評価	実施日 平成30年1月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・先生方が生徒の理解度に合わせて授業を行っており、丁寧に学習が進められている。成績が振るわない生徒にも事後指導をきめ細かく行っている様子が伺える。</p> <p>・10分間の朝学習が定着しており、定期的に確認テストを行うなど見直す機会を設けているのが良い。</p> <p>・次年度からのポートフォリオ形式の評価導入は大変良い。生徒は大変だが効果も期待できる。良い取組であり上手に活用してほしい。</p> <p>・1人1人に合った進路を考えてくれるのがありがたい。10・20年後を見据えて得意分野を伸ばす、目標を持たせる指導が良い。</p> <p>・スクールカウンセラーを有効に取り入れながら指導することが必要である。悩みを聞いてもらう体制づくりが大事である。またスクールカウンセラーでなくても相談しやすい先生に相談できることも必要である。</p> <p>・国際文化科など、国際的な視点に早くから目を向ける体制が整っていることは大変素晴らしい。早くから取り組むことにより意識が高まると思う。</p> <p>・岩槻高校で取り組んでいる国際理解教育の良いところをさらにアピールしてほしい。</p> <p>・昨年度、生徒40名が参加してくれた地域防災訓練は大変ありがたい。地域の行事や活動にPTAも含めて参加してくれたこともありがたい。今年度もお願いしたい。</p> <p>・いろいろな部活動が、夏祭り、地元ボランティアなど地域の活動に参加してくれたことは大変素晴らしい。</p>

